

学力向上特集号

校長 重 越 徹

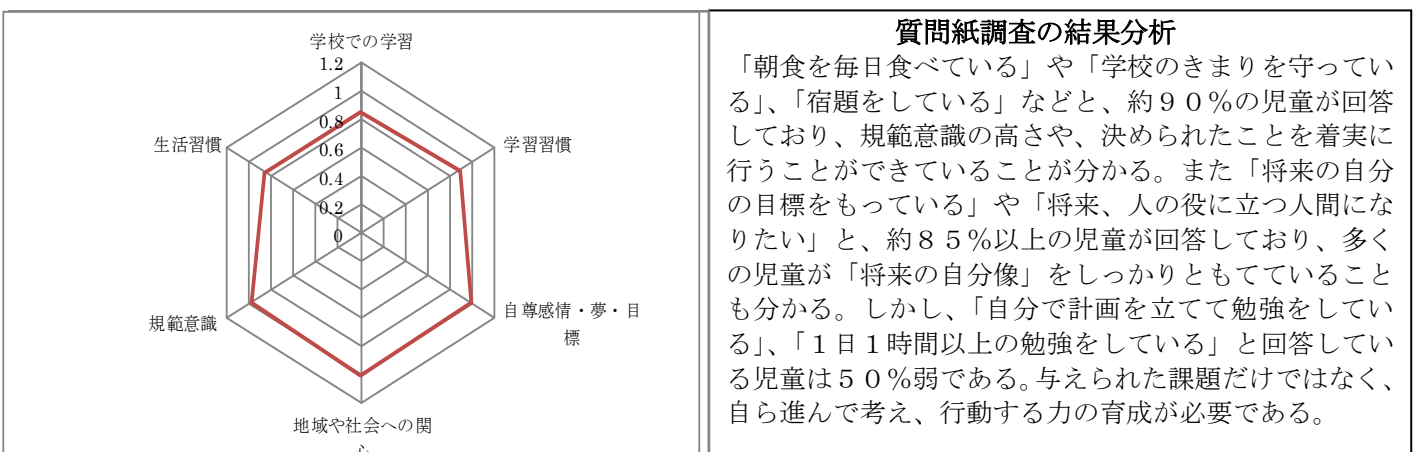
平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数，理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 主語と述語の関係をとらえ、文を正しく書く問題や慣用や敬語を正しく使う問題の正答率が高い。 漢字の読み書きの問題の正答率が低く、習熟が課題。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 「話す・聞く能力」や「読む能力」に関する問題の正答率が高い。 「書く能力」に関する問題の正答率が低く、課題。 	同程度
算数A	<ul style="list-style-type: none"> 除数で表すことができる二つの数量関係を考える問題や、円周率の意味に関する問題の正答率が高い。 「単位量（割合、百分率）」に関する問題の正答率が低く、課題。 	下回っている
算数B	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件などを基に、「答え」を求める問題は、正答率が高い。 与えられた条件などを基に、「なぜ、そうなるのか」と、根拠を明確にして理由を記述する問題の正答率が低く、課題。 	下回っている
理科	<ul style="list-style-type: none"> 「科学的な思考・表現」に関する問題で正答率が高い。 「人体の特徴」や「電流のはたらき」に関する問題で正答率が低い。 	上回っている

2. 学校での学習、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

- ① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）
 - 朝自習や補充学習の時間に、学力の向上、定着が図れるように復習を中心とした活動を計画的に行う。
 - 授業の中に、「考える」「書く」「話す」「聞く」力等が育成できる活動を効果的に位置付ける。
- ② 家庭生活習慣等に関する取組
 - 学年通信や学級懇談会などでも、今回の通信のように児童の課題や本校の取組を保護者に周知し啓発を行う。